

日本ポリアミン研究会 第23回研究発表会

【プログラム】



特別講演

(1月22日)

1. 木村 能章(藍野大学・医療保健学部) 16:00-16:50

「目で見る分子生物学の最前線」

2. 川喜田 正夫(工学院大学・工学部) 16:50-17:40

「腫瘍マーカーとしてのポリアミン:分析と臨床の二人三脚」



一般演題



平成20年1月22日(木)

セッション1【ポリアミンと原核生物】(13:15-14:15) 座長 川喜田正夫(工学院大)

1. ポリアミンによる *Pseudomonas* 属の薬剤感受性への影響

○中田裕二¹、高木晶子¹、大澤仲昭²(¹ 藍野大学・医療保健、² 藍野加齢医学研究所)

2. 緑膿菌における新規のスペルミジン、スペルミン代謝経路に関する研究

○東方和也、清田洋正、船田剛玄、伊藤義文、阿部直樹（東北大院・農）

3. 大腸菌の γ -グルタミルプトレッシン合成酵素の性質と生理的意義

○栗原新¹、織田晋平²、壺井雄一²、金玄国²、押田麻由²、熊谷英彦³、鈴木秀之⁴

(¹理研・BRC-JCM、²京都大・生命科学、³石川県立大・生資工研、⁴京都工織大・応用生物)

4. 大腸菌の γ -グルタミルプトレッシン合成酵素の酸化修飾と分解

○押田麻由¹、栗原新²、鈴木秀之³

(¹京大生命・統合生命、²理研・BRC-JMC、³工織大・応用生)

セッション2【ポリアミンと原核生物】(14:15-15:00) 座長 中田裕二(藍野大)

5. 超好熱菌の長鎖ポリアミン生合成能欠損が生育に及ぼす影響

○森本奈菜子¹、益田剛明¹、中島七海¹、福田青郎¹、今中忠行²、大島泰郎³、藤原伸介¹

(¹関西学院大学理工学部、²立命館大学生命科学部、³共和化工株式会社)

6. 高度好熱菌 *Thermus thermophilus* のポリアミン代謝の謎

大沼みお^{1,3}、竹田悠見子¹、太田敏博¹、玉腰雅忠¹、森屋利幸²、○大島泰郎²

(¹東京薬科大・生命科学、²共和化工・環境微生物研、³現 立教大理)

7. 高度好熱菌 *Thermus thermophilus* における Deoxyhypusine synthase-like (Dsl) タンパクのポリアミン生合成経路への関与

○竹田悠見子¹、太田敏博¹、玉腰雅忠¹、森屋利幸²、大島泰郎²

(¹東京薬科大・生命科学、²共和化工・環境微生物研)

セッション3【ポリアミンと植物・新しい呈色反応】(15:15-16:00) 座長 白幡晶 (城西大)

8. シロイヌナズナにおけるテルモスペルミン作用機構の分子遺伝学的解析

○高橋卓、河野恵理、懸樋潤一、桑城克隆(岡山大学大学院自然科学研究科)

9. サーモスペルミンは植物において一群の遺伝子の発現を誘導する

Sagor G.H.M.¹、仲 友紀恵¹、高橋芳弘¹、○草野友延¹、新津 勝²

(¹東北大・院生命科学、²城西大・薬)

10. スペルミジン・スペルミンの呈色型高感度認識

○椿一典¹、今村洋子²、谷間大輔²、川端猛夫² (¹京府大・生命環境、²京大・化研)



平成 21 年 1 月 23 日(金)

セッション4【アンチザイム】(9:30-10:30) 座長 松藤千弥 (慈恵医大)

11. 細胞周期におけるアンチザイムインヒビター(AIn)の発現動態の解析

○村上安子、鈴木順一郎、鮫島啓二郎、岡 孝己 (武蔵野大学・薬学部)

12. 膵ガン細胞のグルカゴン産生細胞への分化におけるアンチザイムの必要性

○鈴木 順一郎、村上 安子、鮫島 啓二郎、大谷 政博、岡 孝己 (武蔵野大学薬学部)

13. アンチザイム1ノックアウトによる SSAT 活性変化の臓器特異性

○大城戸真喜子、松藤千弥 (東京慈恵会医科大学・分子生物学講座)

14. アンチザイム2ノックアウトマウスのポリアミンと ODC 活性

○佐藤理、大城戸真喜子、松藤千弥（東京慈恵会医科大学・分子生物学講座）

セッション5【ポリアミンと癌】(10:45-11:45) 座長 岡 孝己（武蔵野大）

15. 癌悪液質の脂質代謝の特長ーポリアミン代謝との関連ー

Alper Celik¹、○早田邦康^{1,2}、岡田晋一郎¹、加納良彦¹、辻仲眞康¹、高尾浩一³、長南茂⁴、小西文雄¹、川上正舒⁵

（自治医科大学大宮医療センター、²循環器病臨床医学研究所、¹一般・消化器外科、⁵内科、³城西大学薬学部細胞生理化学、⁴茨城大学農学部資源生物科食品生化学）

16. EGCG による肺癌細胞の増殖・浸潤抑制およびその機構

坂本雄飛、井上智史、○久保田俊一郎（東京大学・総合文化・生命環境）

17. 癌転移に関連する因子に及ぼす低酸素とポリアミンの影響について

○辻仲眞康、早田邦康、加納良彦、小西文雄

（自治医科大学附属さいたま医療センター 外科）

18. 抗癌抗生物質ダウノマイシンによるアポトーシスとポリアミン小体の出現

○進 正志、松永隼人、藤原邦雄

（崇城大学・生物生命）

セッション6【ポリアミンと薬理 I】(13:00-13:45) 座長 柏木敬子（千葉科学大）

19. ポリアミンによるリンパ球 LFA-1 抑制メカニズムの検討

○加納良彦 早田邦康 小西文雄

(自治医科大学さいたま医療センター 外科)

20. ポリアミンと胆汁酸塩の併用による薬物の吸収改善とその機構解析

○谷口 幸司¹、西田 陽平¹、三宅 正晃²、大河原 賢一¹、小富 正昭²、檜垣 和孝¹、木村 聰城郎¹(¹岡山大院・医歯薬、²大塚製薬・製剤研)

21. ポリアミンを用いた薬物吸収改善における胆汁酸の重要性

○三宅 正晃¹、南 孝則²、小富 正昭¹、向井 正志¹、大河原 賢一³、檜垣 和孝³、木村 聰城郎³(¹大塚製薬・製剤研、²大塚製薬・毒性研、³岡山大・薬)

セッション 7【ポリアミンと薬理 II】(13:45-14:45) 座長 久保田俊一郎
(東京大)

22. アクロレイン及び活性酸素種の毒性機序

○町 佳樹¹、吉田 円²、萩原 基文¹、富取 秀行³、東 恭平^{1,2}、西村 和洋¹、柏木 敬子³、五十嵐 一衛^{1,2}(¹千葉大学院・薬、²アミンファーマ研究所、³千葉科学大・薬)

23. アクロレイン耐性細胞の樹立とその性質の検討

○富取秀行¹、中村瑞穂¹、照井祐介¹、吉田円²、柏木敬子¹、五十嵐一衛^{2,3}

(¹千葉科学大学薬学部、²株式会社アミンファーマ研究所、³千葉大学大学院薬学研究院)

24. NMDA 受容体 R-domain 上のスペルミン及びイフェンプロジルの結合部位

○水野聡美¹、韓霞¹、菅波晃子²、田村裕²、西村和洋¹、柏木敬子³、五十嵐一衛¹

(¹千葉大学大学院薬学研究院、²千葉大学大学院医学研究院、³千葉科学
大学薬学部)

25. 高ポリアミン食はマウスの寿命を延長する

○早田邦康^{1,2}、加納良彦²、土橋洋³、辻仲眞康²、小西文雄²

(自治医科大学大宮医療センター、¹循環器病臨床医学研究所、²一般・消
化器外科、³病理)



セッション 8【ポリアミンと分析法】(14:45-15:15) 座長 早田邦康 (自治医
大)

26. トランスグルタミナーゼの基質交換特性に基づく活性測定法の検討

○内野幸恵¹、池口文彦¹、伊藤俊行¹、山崎健一¹、人見清隆²、白幡 晶
¹(¹城西大薬、²名大院農)

27. 健常者の尿中N¹, N¹²-ジアセチルスペルミンレベルの検討

○平松恭子¹、斎藤文子¹、森谷俊介¹、盛山優子¹、坂口幸治²、柳谷真理³、
土居洋介³、小坂美恵子³、高橋慶一⁴、川喜田正夫⁵(¹東京都臨床研・がん
治療プロジェクト、²長野県立須坂病院・呼吸器外科、総合診療科、³アルフ
レッサファーマ・診断薬研究開発部、⁴東京都立駒込病院大腸外科、⁵工学院
大学工学部・応用化学科)